

伊勢市教育研究所

たより



<第12号>

http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo
E-mail:kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

平成30年1月19日
伊勢市教育研究所

伊勢市桜木町55-1 (旧さくらぎ保育所)

「若手教員の学びを支える研修講座」終了!

今年度、新たにスタートした研修講座全4回が、盛況のうちに終了しました。毎回、受講者の皆さんが意欲的に学ぶ姿が印象的で、今後の教育を担う若い力に期待が高まるものでした。対象外の教員の積極的な参加もあり、嬉しくなりました。

来年度も、若手教員のニーズに合った、さらに多くの学びを得られるような研修講座を計画していきたいと考えています。



第3回「授業づくり②(教科指導)」

「子どもの読みが深まる国語の授業 ～国語科から始まる主体的・対話的で深い学び～」

7月27日(月)に宮城 弘明さん(元城田小学校校長・前スマイルいせコンサルタント)をお招きしました。各教科の学びを支えるのはやはり国語の力です。「主体的・対話的で深い学び」の実現のためにどのように授業をつくるのか、ていねいにお話しいただきました。後半は、講義で学んだことを踏まえ、各教科でどのように取り組んでいくか、グループで意見交流しました。



<宮城先生のお話より>

- 授業の両輪は教材研究と子どもを育てておくことである。
- 子どもを育てることは、即席ではできない。子どもが自身のよさや力を最大限発揮し、満足感を得られるように、子どもも教師も同じ目標をもってがんばることが大切である。
- 子どもたちが対話しながら探究していく深い学びの実現のために、教師は①「待つ」②「見る、見守る」③「聴く」 かかわりを心がける。子どもたちの発信に対する受信力を磨き、子ども中心の授業改革が必要である。
- 子どもの読みを深めるためには、教師が奥の深い教材解釈力を身につけ、魅力ある学習課題を効果的に提示するようにする。
- 一人一人の子どもが尊重される安心感のある教室こそ、子どもの主体性や子ども同士のつながりが生まれる土台となる。教師は、理想に向かって、どの子にも心を砕くよう努力したい。
- 子どもが育ってきたと感じたときが、教師として前進したときである。



宮城先生の実践をまとめられたものを寄贈していただきました。研究所にお越しの際は、ぜひお手にとってご覧ください。



<受講者のアンケートより>

- 普段から考えている悩みが解消される講座でした。子どもたちから主体的に読める授業をつくっていききたい。教師自身が変わる必要があると思います。
- 授業で大事なものは、発表ではなく、発表を聞き、考えて、学ぶ、それについて話し合えることであると感じた。
- 授業をつくるには学級をしっかりとつくること、子どもたちを育てることが大切であるということを確認しました。
- お話を聞かせていただき、子どもや教材を大事にすることがいつでも大切だと改めて感じました。原点に戻ることができました。時間が限られていますが、子どもの成長のためにできることを精一杯していききたいと思います。

第4回「教育相談」**「子どものこころを育む関わり」**

12月26日（火）に坪田 祐季さん（鈴鹿医療科学大学附属こころの相談センター臨床心理士）をお招きし、私たち教師が子どもとのかかわりの中で大切にすべきことをわかりやすくお話しいただきました。後半は、『ウインターサバイバル』というグループワークを通して、共感や相互理解を生むコミュニケーションのために必要なことを学びました。

<坪田先生のお話より>

- 現代の子どもは、自己肯定感が低下し、ソーシャルスキルが弱まっているという課題がある。
- 自己肯定感は木の根っこ。根っこが育っていないと折れやすい。大人がかかわり続けることで、子どもの中に自己肯定感が育つ。
- 子どもが心を開きやすい大人とは「理解してくれる人」「理解しようとしてくれている人」である。話を聞いてくれる、心配してくれる、きちんと叱ってくれる、いいところを見てくれる、見方になってくれる...そんな大人を求めている。
- 教師と子ども・保護者の望ましいかかわりには、コミュニケーションがしっかり成立していることが条件であり、そのためには「聴く」ことが必要不可欠である。受け身ではなく、戦略的な攻め手として、自己開示しながら、相手のことを引き出しながら「聴く」。
- 人が他人から受け取る情報は、言葉はわずか7%、残りの93%は声や表情、態度など他の情報から判断している。言葉を意識して使うだけでなく、声のトーンや態度、醸し出す雰囲気なども大切である。



坪田先生の、小気味よく、それでいて優しく穏やかな話しぶりや大きな身振りに、自然と引き込まれます。



<受講者のアンケートより>

- 子どもとのかかわりの中で、これでよかったのかな...と思うことも日々ありますが、今日の講義を聞いて、「理解しようとするのが大事」なんだと分かり、とてもホッとしました。
- 教員という子どもに近い大人の存在として、子どもとの望ましいかかわり方とは何かについて、いくつかの事例をもとに考えることができた。また、自らの普段の子どもとのかかわりを、もう一度考えるきっかけとなった。
- “人は人の中で育つ”という言葉が心に残りました。子ども同士のつながりを大切にして、かかわる機会をたくさんつくっていききたいなと思います。また、自己肯定感の低い子どもがたくさんいるので、自信をつけられるように木の根（見えない部分）を大切にし、よさを認め、伸ばしていきたいなと思います。
- 普段、人と会話をする中で自然と出ている笑顔や頷く行為が、対話における安心できる雰囲気づくりに繋がっていることに気が付きました。

